

6-1. 自己改革実践サイクルにおける「C」「A」の取り組み

自己改革実践サイクルにおける「C」「A」の考え方

P 全JA実施済 対話を通じて、3つの方針をとりまとめた自己改革工程表等を策定し、総(代)会で決定

D 全JA実施中 決定した自己改革の取り組みを着実に実践

CA **最重要** **対話を通じて、取り組みに対する組合員の評価・意向を把握**のうえ、**取り組みを改善**
対話による評価・改善
組合員との対話の状況は、各JAにおいてとりまとめるとともに、対話で出された意見についても、**JA内での共有等を通じて、取り組みの改善、さらなる実践につなげる**

対話

最重要ポイント  対話を通じて、評価・意向を把握し、取り組みを改善、さらなる実践

令和4年度

令和5年度

総(代)会決定

自己改革
工程表

対話

施策の周知・推進

対話

取組状況の説明

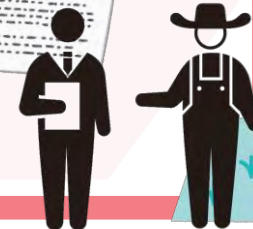
対話

- ①自己改革の取組状況・実績、組合員の利用状況の**説明**
- ②組合員の評価・意向を**把握**
- ③組合員の意見をふまえ**改善**

自己改革
工程表**改案**

総(代)会決定

自己改革
工程表**改**



A **改善** コロナ禍で訪問や会合を控えた状況から、徹底した対話とさらなる実践へ **カイゼン**

6-2. 事例・状況 自己改革実践サイクルにおける「C」「A」の取り組み

様々な機会を利用した組合員との対話の実践とアンケートを通じて評価等を把握している事例

対話を実践している会議・訪問活動

- ①各生産者部会（協議会含む）総会
- ②女性部・青年部総会
- ③各年金友の会総会
- ④総代会前地区別説明会
- ⑤モニター会議
- ⑥認定農業者・組合員と語る会
- ⑦TAF巡回
- ⑧メイン強化先巡回
- ⑨大口先巡回
- ⑩ふれあい訪問活動
- ⑪その他、組合員等を参集する会議等全て

※TAF：担い手に出向く担当部署



TAF：7名（うち令和3年から女性1名）
 業務：定例訪問活動・青色申告支援等
 巡回状況：令和3年度**3,175回**、
 令和4年度**3,515回** 組合長の同行訪問を実施

令和2年度より、毎月第2週に「ふれあい訪問活動」を実施
 毎月テーマの異なるアンケートを実施し、意見等は翌月の企画会で対応を協議することで、
 組合員の意思反映につなげ、広報誌等を通じて、回答のフィードバックを実施



上半期実績報告資料

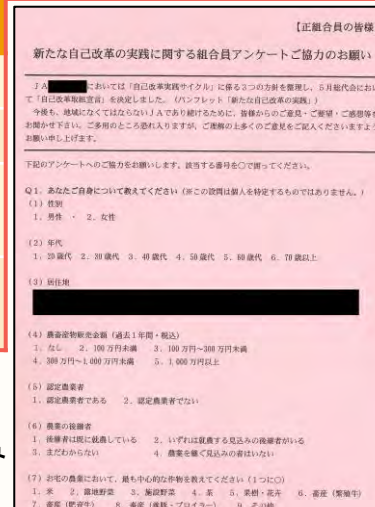
J Aの取組状況（C Aの手法・機会の割合）

内容	J A割合
営農指導や事業推進	95.3%
年1回以上のアンケート	77.7%
生産部会・座談会等	73.1%
評価把握等を目的とした訪問	72.1%
組合員組織活動やくらしの活動等	57.2%

ふれあい訪問活動

令和3年度計画	正組合員	17,000人
令和3年度実績	正組合員	14,329人
令和4年度計画	正組合員	9,600人
	准組合員	3,000人
令和4年度実績	正組合員	11,544人
	准組合員	2,871人

ポイント J A④では、上半期実績の開示を含め、従来の取り組みの拡大など様々な機会を利用して、組合員との対話に取り組んでいる。



評価等把握用アンケート


7-1. 実践サイクル1年目の取り組み徹底に向けた支援

自己改革実践サイクルにおける中央会・連合会の支援の考え方



組合員との対話や各JAの事業環境に応じた取り組みを实践



ポイント  全国一律の支援とするのではなく、全国域の支援策をふまえ、
県域がより実践的な支援に取り組むことで、**各JAの実態に応じた取り組みを着実に実践。**

支援の取り組み

- ・ **全国域において**、3つの方針策定の考え方や盛り込む要素などを整理、周知
R3年度：**全国3地区**で**部課長**向けに**自己改革担当部課長会議**を開催
WEB配信で**経営層**向けに**自己改革実践セミナー**を開催 **担当者**向けに**自己改革実践サイクル及び対話の説明**を実施
R4年度：**全国6地区**で**部課長**向けに**自己改革担当地区別部課長会議** **経営層**向けに**自己改革実践トップフォーラム**を開催
WEB配信で**担当者**向けに**自己改革実践サイクル等全国説明会**を開催 など
→ **各階層や地域ごとの重層的な取り組みで、着実な実践を後押し**
 - ・ **県域において**、各JAに対して、**説明会開催や巡回等より実践的な支援**を実施
- ※各JAの方針策定状況の確認、事例の共有化のために**全JAより方針等を収集**
- ・ **優良事例の横展開**として、会議等での共有に加え、**項目別事例集**の作成・周知や**自己改革ニュース**の毎月の発行を実施
 - ・ **自らの取り組み**として、直販や輸出等の販売強化、銘柄集約や担い手直送等のコスト低減を通じてJAの取り組みを支援

7-2. 事例 実践サイクル1年目の取り組み徹底に向けた支援

自己改革実践トップフォーラム

【対象者】 組合長等 J A 経営トップ層

【目的】 自己改革実践サイクルの着実な実践に向けた機運を高めるとともに、自己改革の最重点分野である「農業者の所得増大」と「農業生産の拡大」に向けた先進的な取り組み事例等を学び、自らの J A の自己改革のさらなる進化をすすめることを目的

【内容】 第1部で、全国的な自己改革実践サイクルの取組状況等について情勢報告ののち、各地区でそれぞれ 2 J A が実践報告し、第2部で、全国連による J A の取り組み支援策を報告した。

【開催方法】 全国 6 地区（一部WEB併催） **396JA、735人**

北海道・東北	59JA、111人	関東・甲信	148JA、253人
東海・北陸	86JA、151人	近畿	37JA、73人
中国・四国	19JA、48人	九州・沖縄	47JA、99人



トラクターの共同購入

大型（60馬力）

平成30年度～令和3年度累計

2,214台



中型（33馬力）

令和2年度～令和4年度12月末

※好評だった大型トラクターの共同購入について担い手の要望に基づき中型も発売

3,411台

人手不足に対応した労働力支援

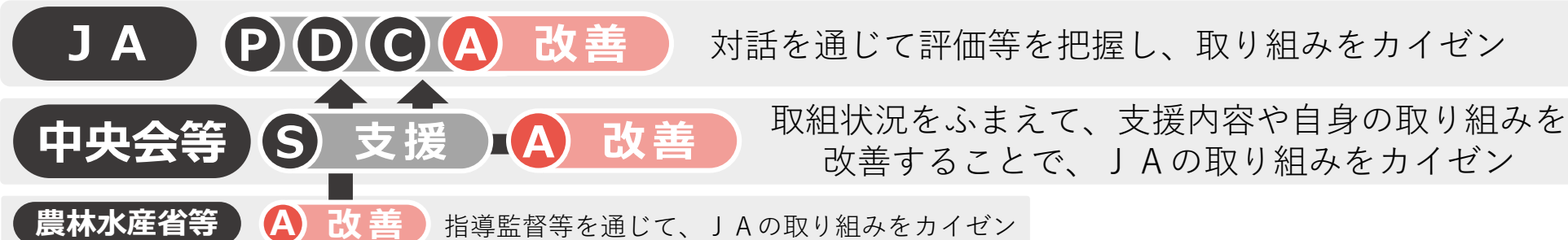
<令和4年度実績>

県	参加延べ人数	作業内容 パートナー企業
山形	2,000人	サクランボ収穫等 (株) J T B
福島	4,000人	きゅうり選果等 (株) J T B
大分	20,000人	各種品目収穫・選別 (株) 菜果野アグリ
全国計	53,000人超	14道県 パートナー 6社



8. 自己改革実践サイクルにおけるカイゼンの取り組み

自己改革実践サイクルのカイゼンの考え方



ポイント 自己改革実践サイクルは、**3重の「カイゼン」の仕組みを備えた、農業者の所得増大、農業生産の拡大、地域の活性化のためのベストプラクティス。**

JAにおける2年目のベストプラクティス

- ①自己改革実践の具体的な方針 ➡ つながりが不明確なKPIをなくし、明確で所得増大の多寡がわかるKPIを設定し、実践
- ②シミュレーション ➡ 妥当な収支改善策の検討のため、事業量目標や収支改善額等を盛り込み、進捗管理を高度化し、実践
- ③准組合員の意思反映及び事業利用の方針 ➡ 他のJAの取り組みも参考にしつつ、農業振興の応援団の意思反映を実践

最重点 さらなる会合の開催や訪問活動などの**徹底した対話による「C：評価」と「A：改善」を実践**

中央会等における2年目のベストプラクティス

- ・自己改革実践サイクルの取り組み徹底に向けた課題の整理と解決に向けた地区別・階層別の会議やフォーラムの開催
- ・販売強化やコスト低減等に向けた自らの取り組みのさらなる実践を通じたJAの取り組み支援
- ・優良事例のさらなる横展開に向けた事例集の更新や活用推進の取り組み
- ・JAにおける「CA」の徹底に向けたツール提供や対話の実践支援 など

自己改革に、終わりはない。（JA全中・中家会長）

自己改革実践サイクルによるカイゼンを通じて「不断の自己改革によるさらなる進化」をめざす。 13